

琉球大学学術リポジトリ

[抄録] 甘蔗葉片診断に関する研究

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東, 清二 (抄録) , Azuma, Seizi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015211

甘蔗葉片診断に関する研究

(趙峻田・張晋華・雷通明・楊滄慈：台湾糖業試所研究彙報37：43～59, 1965)

甘蔗葉片の診断は土壤中の肥料成分量を知る一つの指標として各国において利用されているが 1952年から1957年にわたってそれに関する試験を行なったので報告する。

N, P_2O_5 , K_2O の施用量が異なるいくつかの試験圃から第3葉を標本として採集し、乾燥粉碎したのち H_2SO_4 と H_2O_2 で分解し、最終液をN, P, Kの分析に使用した。

施用量と収量および葉中のN, P, K含量との間には次のような関係があった。Nの施用量はどの試験圃でも収量に影響し、一般に葉中のN含量の増加はN肥料の施用量に比例した。 K_2O 肥料の場合は収量と殆ど関係なく、葉中のK含量とのみ関係があった。

P_2O_5 の施用量と収量との関係も殆どなく、葉中のP含量とも関係が認められなかった。

また施用量と葉中の他の三要素含量との関係について調べた結果は次のとおりであった。

Nおよび K_2O の施用量と葉中のP含量、または P_2O_5 および K_2O の施用量と葉中のN含量との間には殆ど関係がなく、Nおよび P_2O_5 の施用量と葉中のK含量との間には密接な関係があった。それらのことから葉中のK含量は圃場における K_2O の肥沃度を知る一つの指標とすることが出来る。

しかし圃場環境、栽培方法、品種の差異などのため普遍的な応用にはなお問題がある。上の試験は反収14～18トンを生産した圃場における成績であり、N, P, K含量が多分に高い。一般圃場においては更に別の要素が作用してくるかも知れない。

(抄録 東 清二)